

# 夢のつばさ

函南小学校だより

2016. 5 No. 3



朝会での校長先生のお話です。

## 「ひび割れ壺」

インドのある水くみ人足は二つの壺を持っていました。天秤棒の端にそれぞれの壺を下げ、首の後ろで天秤棒を左右にかけて、水を運びます。

その壺の一つにはひびが入っています。もう一つの完璧な壺が小川からご主人様の家まで一滴の水もこぼさないのに、ひび割れ壺は人足が水をいっぱいにしてもご主人様の家につくころには半分になっているのです。

完璧な壺はいつも自分を誇りに思っていました。なぜなら、彼が作られた本来の目的をいつも達成することができたから。ひび割れ壺はいつも自分を恥じていました。なぜなら、彼が作られた本来の目的を半分しか達成することができなかったから。

2年が過ぎ、すっかり惨めになっていたひび割れ壺は、ある日、川のほとりで水くみ人足に話しかけました。

「渡しは自分が恥ずかしい。そしてあなたにすまないと思っている。」

「なぜそんなふうに思うの？」水くみ人足はたずねました。

「何を恥じているの？」

「この2年間、わたしはこのひびのせいで、あなたのご主人様の家まで水を半分しか運べなかった。水が漏れてしまうから、あなたがどんなに努力しても、その努力が報われることはない。それがつらいんだ。」壺は言いました。

水くみ人足はひび割れ壺に言いました。

「道ばたの花に気づいたかい？花が君の側にしか咲いていないのに気づいたかい？僕は君からこぼれ落ちる水に気づいて、君が通る側に花の種をまいたんだ。そして君は毎日、僕たちが小川から帰る途中水をまいてくれた。この2年間僕は毎日ご主人様の食卓に花を欠かしたことがない。君があるがままの君じゃなかったら、ご主人様はこの美しさで家を飾ることはできなかったんだよ。」

わたしたちはみな、それぞれ個性的なひび割れをもっています。わたしたち一人一人がひび割れ壺なのです。自分にも友達にも良くないところや欠点があります。また、その逆も然りです。自分のひびを嘆いたり、友達のひびに対して笑ったりすることはやめて、見方を変えてみましょう。きっと欠点も良いところにつながります。



## 先生の卵 教育実習生が来ています。

櫻井梨那さん、水口麻衣さんです。お二人とも函南小学校の卒業生。みなさんの大先輩ですね。櫻井さんは主に5年3組と一緒に勉強をします。水口さんは養護教諭になるために保健室のお仕事を勉強をしています。6月10日までの予定です。仲良くしてください。

# 遠足（校外学習）へレッツゴー！

## 1年生 三津シーパラダイス



イルカのショーはお見事！1年生は大喜びでした。館内では、いろいろな海の生き物と出会いました。天気が悪くて残念でしたが、子どもたちの顔は、笑顔で晴れていました。

## 2年生 沼津港 深海水族



太古の地球を感じることでできる博物館でグループ毎なかよく見学ができました。たくさんの展示物を目にし、手に触れ、驚きと不思議をたくさん発見できました。



## 3年生 生命の星・地球博物館



伊豆を代表する、いや日本を代表する歴史の町をグループで散策しました。見事に晴れて、世界遺産の反射炉も誇らし気です。どのグループも仲間と力を合わせて行ってきました。

## 6年生 韭山史跡巡り

